

令和6年度保護林モニタリング調査 調査箇所及び調査項目（案）

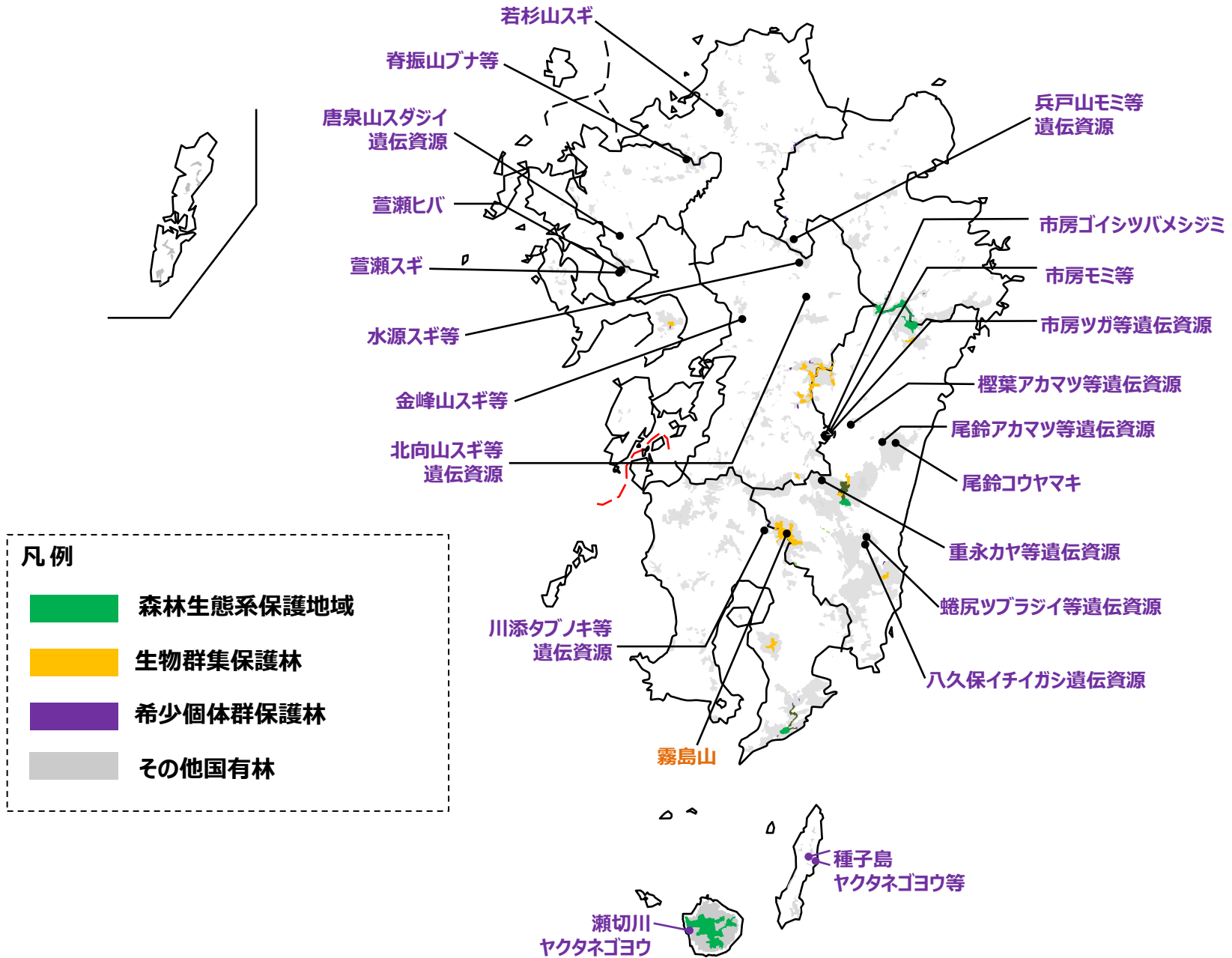
～ 目次 ～

1. 令和6年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧……………P1
2. 調査項目選択の基本的な考え方…………… P3
3. 調査手法選択の基本的な考え方…………… P5
4. 令和6年度保護林モニタリング調査項目一覧……………P6

1. 令和6年度保護林モニタリング調査予定箇所一覧

区分	保護林名		森林管理署	ページ
生物群集保護林	①	重 霧島山（きりしまやま）	鹿児島・都城	8
希少個体群保護林	②	若杉山（わかすぎやま）スギ	福岡	9
	③	唐泉山（とうせんざん）スタジイ遺伝資源	佐賀	10
	④	脊振山（せふりやま）ブナ等	佐賀	11
	⑤	萱瀬（かやせ）スギ	長崎	12
	⑥	萱瀬（かやせ）ヒバ	長崎	13
	⑦	水源（すいげん）スギ等	熊本	14
	⑧	北向山（きたむきやま）コナラ等遺伝資源	熊本	15
	⑨	金峰山（きんぽうさん）スギ等	熊本	16
	⑩	重 市房（いちふさ）モミ等	熊本南部	17
	⑪	重 市房（いちふさ）ツガ等遺伝資源	熊本南部	18
	⑫	重 市房（いちふさ）ゴイシツバメシジミ	熊本南部	19
	⑬	兵戸山（ひょうどやま）モミ等遺伝資源	大分西部	20
	⑭	檜葉（かしば）アカマツ等遺伝資源	宮崎北部	21
	⑮	尾鈴（おすず）アカマツ等遺伝資源	西都児湯	22
	⑯	尾鈴（おすず）コウヤマキ	西都児湯	23
	⑰	八久保（はちくぼ）イチイガシ遺伝資源	宮崎	24
	⑱	蝮尻（になじり）ツブラジイ等遺伝資源	宮崎	25
	⑲	重永（しげなが）カヤ等遺伝資源	宮崎	26
	⑳	川添（かわぞえ）タブノキ等遺伝資源	鹿児島	27
	㉑	種子島（たねがしま）ヤクタネゴヨウ等	屋久島	28
	㉒	瀬切川（せぎれがわ）ヤクタネゴヨウ	屋久島	29

令和6年度保護林モニタリング調査予定箇所位置図



2.調査項目選択の基本的な考え方①

モニタリング調査体系表 (保護林モニタリング調査マニュアルP32～37参照)

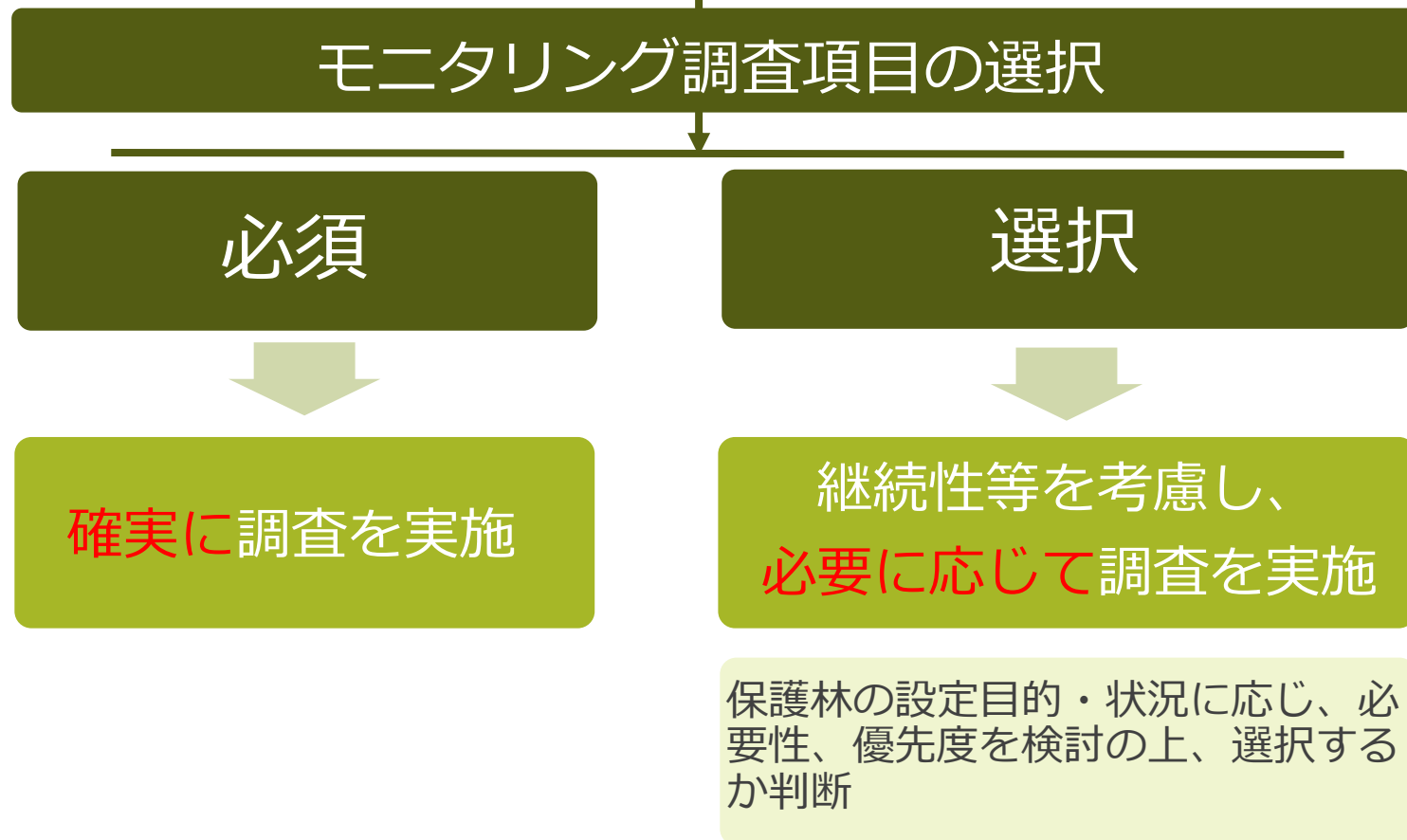
生物群集保護林(参照)

保護林の機能 評価の観点	基準	指標	モニタリング調査項目		モニタリング調査手法 (モニタリング調査項目に対して複数の調査手法の区分が示されている場合には、原則として1 手法、特に必要がある場合には複数の手法を選択)		手法・野帳様式集 該当箇所	
			評価の観点	調査の選択 (必須/選択)	調査手法の区分	調査手法の例		
デザイン	地域固有の生物群集を有する森林が維持されている	自然状態が十分保存された天然林等の構成状況	森林タイプの分布等状況調査	保護林内及び周辺の森林タイプの構成がどのように変化しているか。保全利用地区においては、天然林への移行が進んでいるか。	選択	資料調査	最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図(森林タイプごとの面積・分布)を整理	A
			樹種分布状況調査	地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十分保存された天然林等たるべき樹種分布・構成となっているか。	選択	リモートセンシング	調査時点における最新の空中写真等を取得・整理	B
			樹木の生育状況調査	樹木の生育が、地域固有の生物群集を有する森林として自然状態が十分保存された天然林等たるべき状態にあるか。	必須	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、樹木の生育状況を整理	C
価値	森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている	野生生物の生育・生息状況	下層植生の生育状況調査	地域固有の野生生物(植物)が生育しているか。外来種や特定の植物のみが増えていないか。	必須	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、下層植生の生育状況を整理	F
			野生動物の生息状況調査	地域固有の野生動物が生息しているか。	選択	森林概況調査	調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察	D
						森林詳細調査	同一時期にプロット内に出現する全ての種を記録及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を定点観察	G
		森林の被害状況	山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査	災害がどこで発生しているか。被害状況はどの程度か。	選択	資料調査	既存資料(森林生態系多様性基礎調査、モニタリングサイト1000等)を活用し、野生動物の生息状況を整理	H
			病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査	病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか。被害状況はどの程度か。	選択	動物調査	自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録	I-1 (哺乳類) I-2 (鳥類) I-3 (その他)
						資料調査	災害履歴情報等(災害復旧、防災関連事業)を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理	J
						リモートセンシング	保護林区域を明示した空中写真を(立体視)判読して、大規模な災害発生箇所(山腹崩壊等)を確認	K
						資料調査	既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査	L
						森林概況調査	調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察	D
			森林詳細調査	プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に調査	M			
利活用	森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用状況	論文等の発表状況調査	主にどのような学術研究に利用されているか。	選択	資料調査	インターネット等を利用し、学術論文数等を整理	N
管理体制	適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	外来種駆除、民国連携の生物多様性保全に向けた事業・取組実績、巡視の実施状況調査	対象保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業・取組となっているか。	選択 (保護林等整備・保全対策による事業等が行われている場合には必須)	聞き取り調査	業務資料や担当官への聞き取り調査により、保護林の管理体制、事業・取組実績を確認	O

2.調査項目選択の基本的な考え方②

※保護林モニタリング調査マニュアルP11,32～37参照

モニタリング調査体系表



3.調査手法選択の基本的な考え方

※保護林モニタリング調査マニュアルP15,16参照

モニタリング調査体系表

それぞれの調査項目に対する
モニタリング調査手法の選択

複数の調査手法がある場合、原則として1手法を選択

シカ食害・病虫害等により、植生
変化が懸念、個体群の消失が危ぶ
まれている箇所

特に問題が認められていない

森林**詳細**調査

調査プロットを設定して
保護林の状況を把握する
詳細な現地調査

毎木調査 + 植生調査

森林**概況**調査

チェックシート等を用いて
保護林の状況を把握する
簡易な現地調査

4. 令和6年度保護林モニタリング調査項目一覧

◎:必須実施、●:選択 (R6実施)

	重点対策17保護林	保護林名	区分	森林タイプの分布	樹種分布	樹木の生育			下層植生の生育			野生動物の生育・生息			災害発生状況		病虫害・鳥獣害			利活用	管理体制	保護対象種の生育・生息		植生保護柵内の植生	
				A	B	C	D	E	F	D	G	H	I-1	I-2	I-3	J	K	L	D	M	N	O	P	Q	-
				資料調査	リモート	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	哺乳類	鳥類	その他	資料調査	リモート	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	聞き取り	資料調査	森林詳細	森林詳細
①	重	霧島山	生物群集保護林			◎		◎	◎		◎							●		●		●			●
⑩	重	市房モミ	希少個体群保護林			●		●	●		●						●	●			●	◎	◎	●	
⑪	重	市房ゴイシツバメシジミ				●		●	●		●			◎			●	●			●	◎	◎	●	
⑫	重	市房ツガ等遺伝資源				●		●	●		●						●	●			●	◎	◎	●	
②~⑨ ⑬~⑲		上記以外すべて				●		●	●		●						●	●			●	◎	◎		

重点対策17保護林に該当する保護林については ニホンジカ対策の評価項目を引き続き実施

- ・ 柵内外の植生調査
- ・ 柵の点検、修理
- ・ 新たな柵の設置箇所の提案

* 保護林モニタリング調査マニュアルでは、令和6年度保護林モニタリング調査対象保護林における森林詳細調査は「選択」となっているが、シカ被害状況や病虫害発生の可能性を踏まえ、実施する。資料調査についても、「選択」となっているが、最近の資料の有無を含め実施する。

* 同様に、病虫害・鳥獣害について、霧島山では森林詳細調査が「選択」、その他の保護林では森林概況調査が「選択」となっているが、シカ被害状況や病虫害発生の可能性を踏まえ、実施する。

* また、植生保護柵が設置されている保護林について、植生保護柵内の植生に関する森林詳細調査は「選択」となっているが、シカ被害の状況を踏まえ、柵内外の植生調査を実施する。

植生保護柵内の植生調査

【目的】 保護対象種の確実な育成を図るため。

【対象地】 重点対策17保護林内の植生保護柵のうち、既設プロットに隣接する各1つを選択する。

①保護柵内外の植生調査

植生の保護・再生状況等を把握するため、監督職員と協議のうえ、植生保護柵設置箇所から1箇所選定し植生保護柵内外の植生調査を実施し、今後の対応策を提案する。

②保護柵の保守点検・修理

保護柵の保守点検を行い、破損している場合には修理する。なお、対応が不可能な規模の修理を伴うものについては、本調査事業の監督職員へ破損状況等を連絡するものとする。

③保護柵の新たな設置箇所の検討

優先的に保全すべきエリアとシカ柵設置箇所を設定するための調査を実施し、提案する。

④保護柵内の植生の保護・再生の補助作業の検討

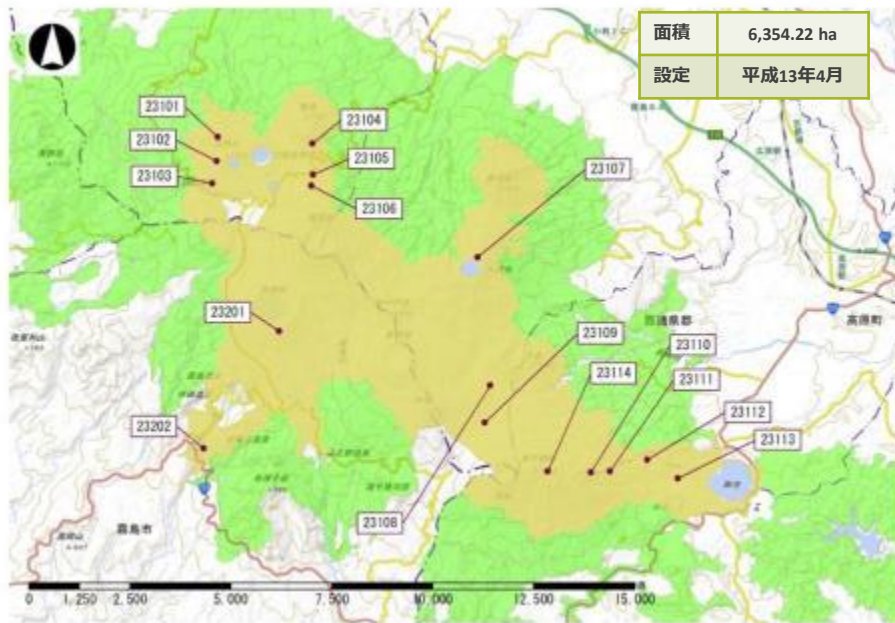
植生保護柵内ではシカによる食害を受けないため、繁殖力の強い特定の種が増加し、保護対象種を被圧する。そのため、保護対象種の生育に影響が生じている場合や、今後の生育に影響を与える可能性があるかと判断された場合、対象種の保護や再生の補助作業の必要性について提案する。

①霧島山生物群集保護林

霧島山周辺は、東の高千穂峰（標高1,574m）と西の韓国岳（標高1,700m）の両主峰を中心に20余の大小円錐火口が群立する一大火山巣を形成している。標高500mと標高1,100mの地域にはモミ、ツガ、アカマツ、カシ類、イスノキ群系（霧島山暖帯性上位植生）、標高1,100m以上の高地にはハリモミ、アカマツ、ブナ、ミズナラ、スズタケ群系（霧島山温帯性植生）がみられ、アカガシ群落、ブナ、スズタケ群落など暖温帯から冷温帯までの垂直分布を有している。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象の生物群集は、モミ、アカマツ、ブナ、ミヤマキリシマ等からなる針広混交林を生育・生息基盤とする森林生態系。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル 3
- 火山ガスの影響による高木のアカマツの枯損や、風害による高木モミの幹折れ等、4プロットで**枯損木または倒伏木**が3本以上確認された。
- スズタケは、全16プロット中2プロットで矮小化した個体、3プロットで枯死程が確認された。
- 鳥類ではヤイロチョウなど8種の希少種が確認された。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種を含む各事項に係る、
森林詳細・資料

【選択項目】

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）
植生保護柵内の植生調査（実施）



新燃岳



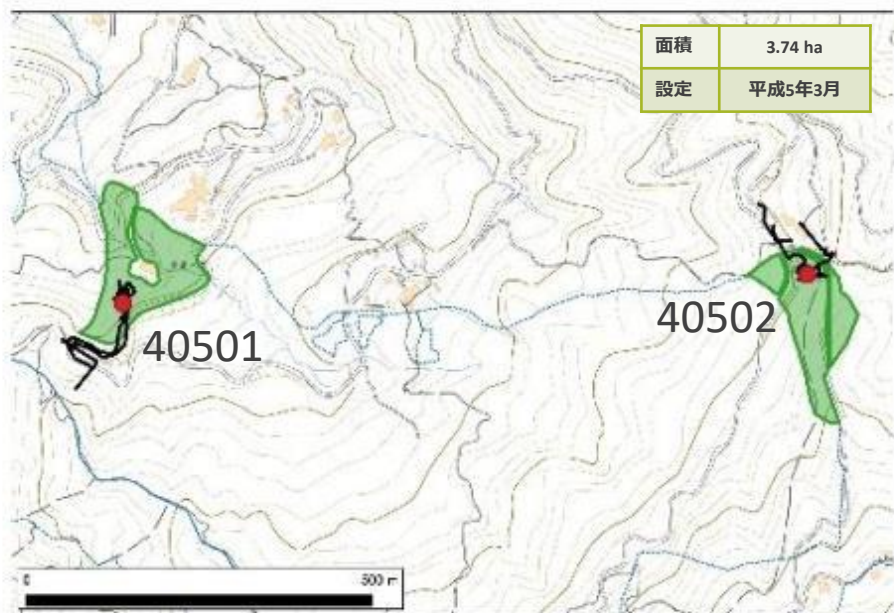
プロット23101

②若杉山スギ希少個体群保護林

若杉山（標高681m）の中腹に位置している。林相は、英彦山、行者スギと共に老齢大径木を主体とした林分となっている。若杉山は信仰と伝説の霊山で、山城一帯は若杉楽園キャンプ場近くであり、若杉山一帯に点在する札所には一年中巡礼の姿が絶えない信仰と伝説の霊山である。

保護・管理を図るべき事項

スギ老齢人工林を保護し、学術研究等に資する。



H25 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害は確認されなかった。
- スギの生育は全般的に健全であるが、2プロット全体で幹折れ木が1本、台風によるものと思われる倒木が2本確認された。
- プロット内およびその周辺にて確認された希少種は、アケボノシュスラン、エビネ属の一種の2種であった。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かったが、周辺下部ではシカの痕跡が見られた。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



プロット40501

③唐泉山スタジイ遺伝資源希少個体群保護林

佐賀県塩田町と嬉野町との町境にある唐泉山（410m）山頂に位置している。林況は大部分がスタジイ、ツブラジイ等が混生する天然林であり、根回りが6m以上のものもある。大半は3m前後で占め、樹高は16mにも達している。元和5年（1619年）に全山火災に会い、文政11年（1828年）の大風で北側の一部を残し倒れてしまったと伝えられている。この一帯は八天神社の社地として伐採が禁止されてきたもので、昭和39年に佐賀県の天然記念物に指定された。

保護・管理を図るべき事項

スタジイの保存。

H26 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害は確認されなかった。
- スタジイの確認本数は、前回調査（平成21年度）より増加しており、前回調査後に新たに枯損になった個体もなかった。
- 保存対象種であるスタジイを含め生育する樹木は順調に生育。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かった。

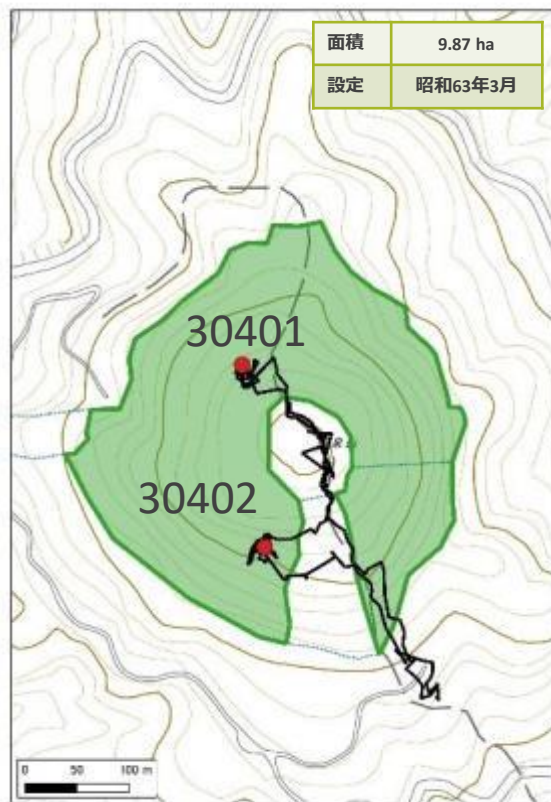
R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



プロット30401

④ 脊振山ブナ等希少個体群保護林

佐賀県と福岡県の県境で、脊振山から金山、三瀬峠へ至る九州自然歩道沿いで、脊振山付近の上部の南東部に位置している。林相は、スギ、ブナ、シデ、カエデ等の広葉樹林となっている。

保護・管理を図るべき事項

温帯性の代表的天然林を保護し、学術研究等に資する。

H26 結果（森林調査・シカ被害）

- シカ被害は確認されなかった。
- ブナ、アカガシ等に風雪害により幹折れした立木が確認されたが、こらら大径木になる種の幼木も確認されていることから、保護林内の林相は健全な状態であった。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かった。

R6 調査項目

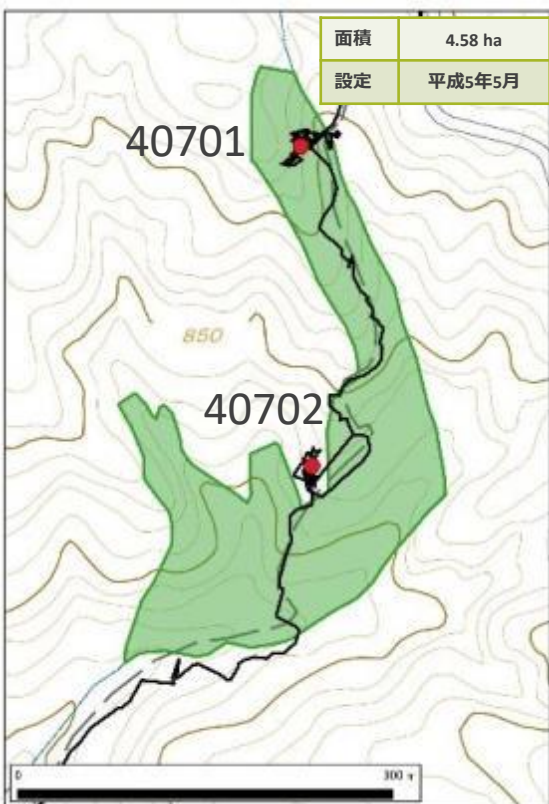
【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



プロット40701

⑤ 萱瀬スギ希少個体群保護林

大村市の北東で、佐賀県境の経ヶ岳（標高1,076m）・多良岳（標高983m）・高来町の五家原岳（標高1,057m）西南側に位置する。林相は萱瀬スギは老齢林であり、林齢は240年生以上、径級は40～130cmの幾分樹冠は疎開している。平成12年4月に萱瀬スギが「森の巨人たち100選」に選ばれた。（樹高47m、幹周490cm、樹齢240年生）

保護・管理を図るべき事項

「萱瀬スギ」老齢林の保存を図り、学術研究等に資する。

H26 結果（森林調査・シカ被害）

- 高木層ではスギが優占し、亜高木層にタブノキ、ウラジロガシなどが優占する森林。
- シカ被害は確認されなかった。
- 高木・亜高木層では枯損木が少数確認されたが、大径木になる種の幼木も確認されていることから、保護林内の林相は健全な状態であった。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かった。

R6 調査項目

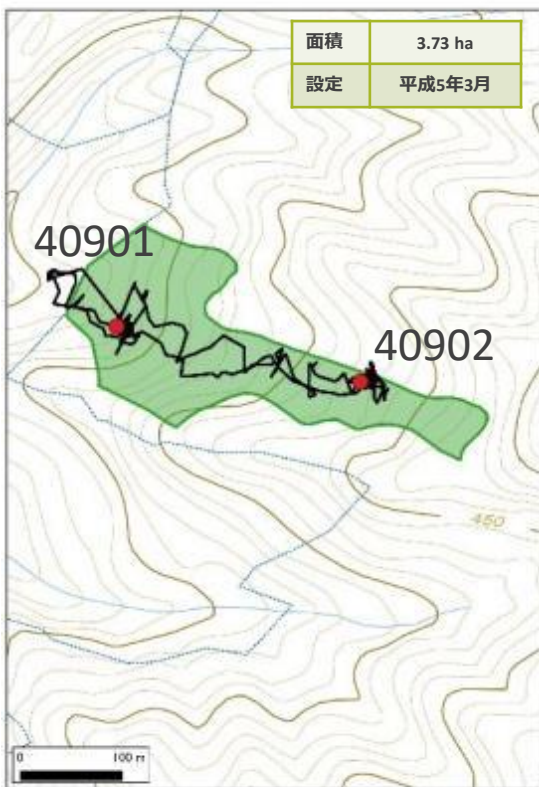
【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



プロット40901

⑥ 萱瀬ヒバ希少個体群保護林

大村市の北東で、佐賀県境の経ヶ岳（標高1,076m）・多良岳（標高983m）の南側で、高来町の五家原岳（標高1057m）西側に位置する。林相は、ヒバの植林地でヒバの本数は少なく、スギ、ヒノキ、イヌマキが混生している。

保護・管理を図るべき事項

「萱瀬ヒバ」老齢林の保存を図り、学術研究等に資する。

H26 結果（森林調査・シカ被害）

- ヒバの本数は高木層の3分の1程度と少なく、スギ・ヒノキ・イヌマキと混生。亜高木層ではヤブニッケイが優占。
- シカ被害は確認されなかった。
- 高木・亜高木層では枯損個体も確認されているが少数で、新たに調査対象となった小径木が多く確認された。
- 希少な植物として、エビネ属の一種が確認された。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

面積	0.30 ha
設定	平成5年3月



林相



プロット41001

⑦水源スギ等希少個体群保護林

熊本県菊池市の東部で標高約600mの位置にあり、近くを菊池阿蘇スカイラインと、九州自然歩道が隣接している。同地区一帯がくまもと自然休養林（菊池水源地区）に指定されている。林相は、旧藩時代に植栽されたスギとヒノキ（ナンゴウヒ）を直挿と挿木苗を植栽したとみられている。

保護・管理を図るべき事項

旧藩時代植栽のスギ、ヒノキ老齢林の保存を図り、学術研究等に資する。

H25 結果（森林調査・シカ被害）

- 高木層にスギ・ヒノキの老齢林が林立した林分。
- シカ被害は確認されず、低木層ではシカの嗜好性植物であるアオキの優占度が高かった。
- 希少な植物として、ナツエビネ、モミジコウモリ、ヒメハシゴシダ、ヤマトウバナの4種が確認された。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かった。ただし、周辺地ではシカの生息情報あり。

R6 調査項目

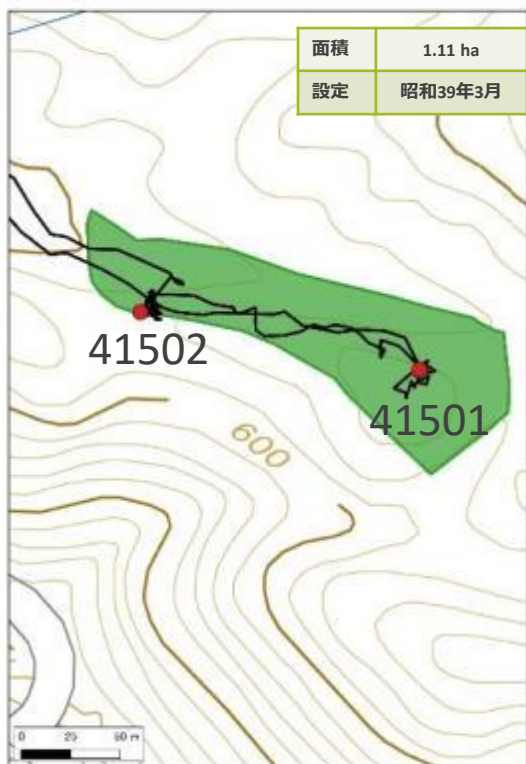
【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



近景



プロット41501

⑧ 北向山コナラ等遺伝資源希少個体群保護林

阿蘇外輪山の立野火口瀬の南側に位置している。標高600mの急峻な斜面にはアカガシ、スダジイ、タブノキ、コナラ等の広葉樹を主体とする林分があり、九州中央部に残存する自然林としては、学術上高く評価されている。

保護・管理を図るべき事項

保護管理の対象個体群は、コナラ、クヌギ、ウラジロガシ、クマシデ及びスギ。



H31 結果 (森林調査・シカ被害)

- シカ被害レベル **3-4**
- 熊本地震並びに豪雨に伴う崩壊地多数有り。
- 高木層には、3プロット中1プロットで**枯損木**が3本以上確認された。
- 保護対象樹種の枯損等は確認されなかった。
- 草本層は全3プロットともに植被率が極めて低く、貧弱であった。
- 表土流亡が3プロット中1プロットで起こっており、**草本層の衰退が顕著**である。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料 (実施)

病虫害・鳥獣害の発生状況 (実施)



遠景



プロット30701

⑨ 金峰山スギ等希少個体群保護林

金峰山（標高665m）の東方、標高約200mに位置している。林相は、スギ、ヒノキ林となっており、一部にサワラや薬用植物で野生化したテンダイウヤク等も見られる。これらの立木は旧藩時代に天然性稚樹を畑地に床替え養成し、植林したのが始まりと伝えられている。

保護・管理を図るべき事項

スギ、ヒノキ、サワラ老齢林の保存を図り、学術研究等に資する。



全景



プロット41601

H25 結果（森林調査・シカ被害）

- 高木層をスギ、ヒノキ、サワラが生育する林分。亜高木にアラカシ、タブノキ、オガタマノキ、クロキ等が混成する。
- シカ被害は確認されなかった。
- 希少な植物として、ヒメハシゴシダ、マテバシイが確認された。
- R2年度の簡易調査でも、シカの痕跡はなく、下層植生及び階層構造に変化は無かった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

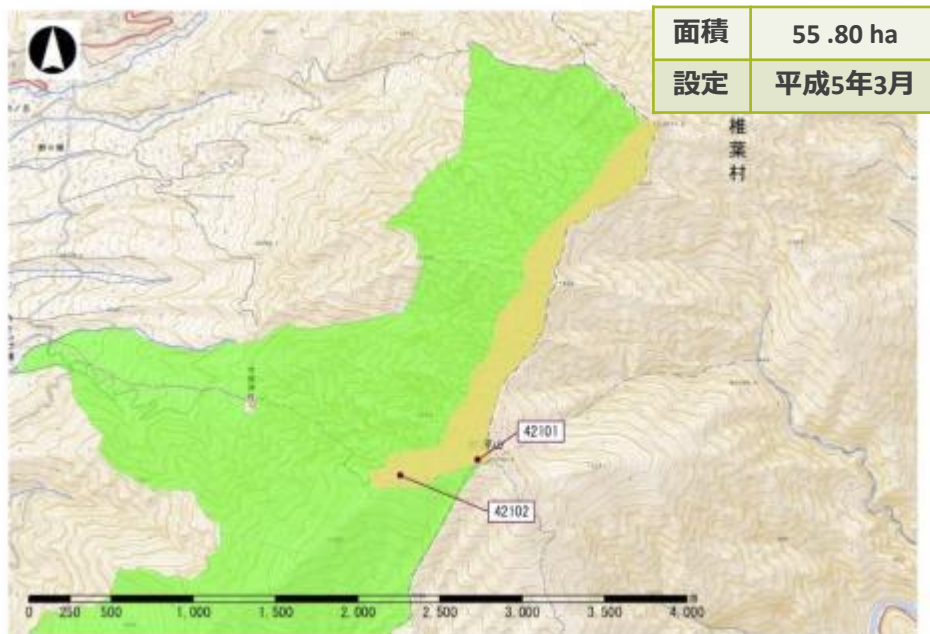
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

⑩市房モミ等希少個体群保護林

熊本県水上村と宮崎県西米良村界にある市房山（標高1,721m）を頂点とする位置にあり、標高1,450m～1,721mである。また、九州中央山地国定公園に指定されている。林相はツガ、ヒメコマツ、ケヤキ、シオジ等が生育する天然林。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、ブナ群落やマンサク群落を構成する種。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル **3-4**
- 高木層では気象害や病虫害は確認されなかったが、シカ被害による一部枯損が確認され、低木層では群落構成種のマンサクの枯損の進行を確認。
- 木または倒伏木が3本以上確認されたプロットはなかった。
- 草本層は貧弱**で、植被率の高い場所では**シカの忌避植物**が林床を覆っている状況であった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

植生保護柵内の植生調査（実施）



遠景



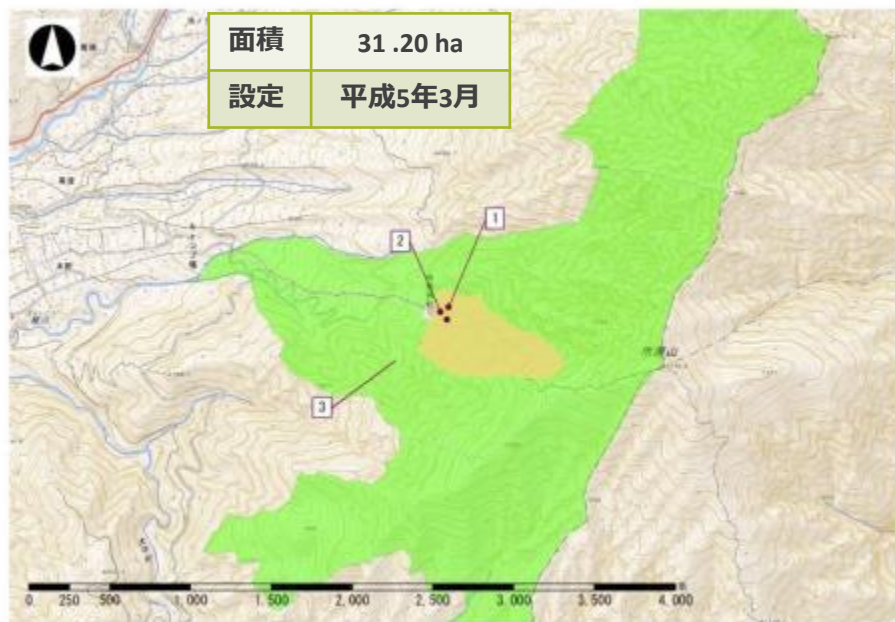
プロット42101

⑪ 市房ツガ等遺伝資源希少個体群保護林

熊本県球磨郡水上村の市房山（1,722m）西側中腹の標高900m～1,350mに位置にする。林相は、ツガ、ヒメコマツ、ケヤキ、シオジ等で構成される。途中の市房神社参道には、市房スギ（樹齢800年生以上）が43本生立している。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキ。



遠景



プロット1

H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル **3**
- 保護対象樹種の枯損等は確認されなかった。
- 保護対象樹種や林冠構成種の**後継個体**（稚樹や実生）として**モミ、ヒメシャラ、イヌシデ、アオダモ、ツガ、カヤ**などが確認された。
- 草本層及び低木層は植被率が高かったが、シカの忌避植物が優占している状況であった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

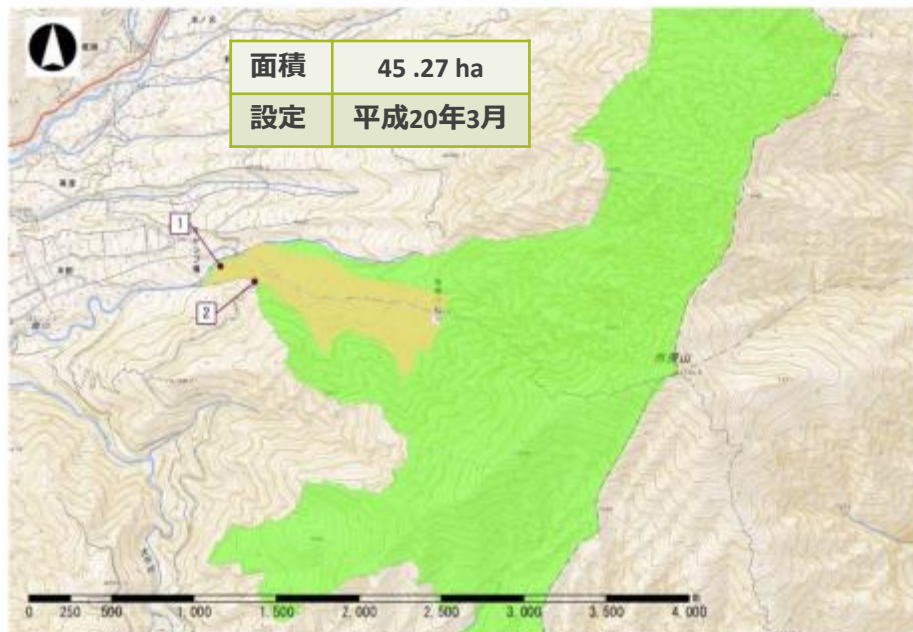
植生保護柵内の植生調査（実施）

いちぶさ ⑫市房ゴイシツバメシジミ希少個体群保護林

熊本県水上村の市房山地西側の市房神社付近の下方斜面（標高600～900m）に位置する、ケヤキやカシ類などの大径木にシシンランが着生する林齢175年生以上の天然林と林齢48年生以上の天然生林である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、ゴイシツバメシジミ及びゴイシツバメシジミの生息、食草の生育環境の常緑広葉樹林を構成する種。



ゴイシツバメシジミ（雌）



プロット1

H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル**3**
- 別途調査にて保護対象種のゴイシツバメシジミの成虫が計37回確認された。また卵1個と幼虫10個体が確認された。
- 林冠構成種の後継個体（稚樹や実生）としてウラジロガシ、ホソバタブ、タブノキが確認された。
- 草本層**は全2プロットともに植被率が低く、貧弱である。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料
野生動物の生育・生息

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）
植生保護柵内の植生調査（実施）

⑬兵戸山モミ等遺伝資源希少個体群保護林

大分県日田市の津江山系の旧上津江村と旧中津江村との境界にある酒呑童子山（1,180m）から東へ尾根を下った稜線の南東の緩やかな斜面（標高980～1,140m）に位置する、モミ、アカシデ、ミスナラなどを主体とした林齢150年生以上の天然林である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、モミ、アカシデ、ミスナラ。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル0
- 保護対象樹種の枯損は認められず、高木層の種構成に大きな変化は認められなかった。
- スズタケは開花中の個体から枯死稈のみになった個体までが確認され、開花後のスズタケの実生個体も確認されたことから、シカの採食の影響は受けていないと思われる。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



スズタケの開花状況



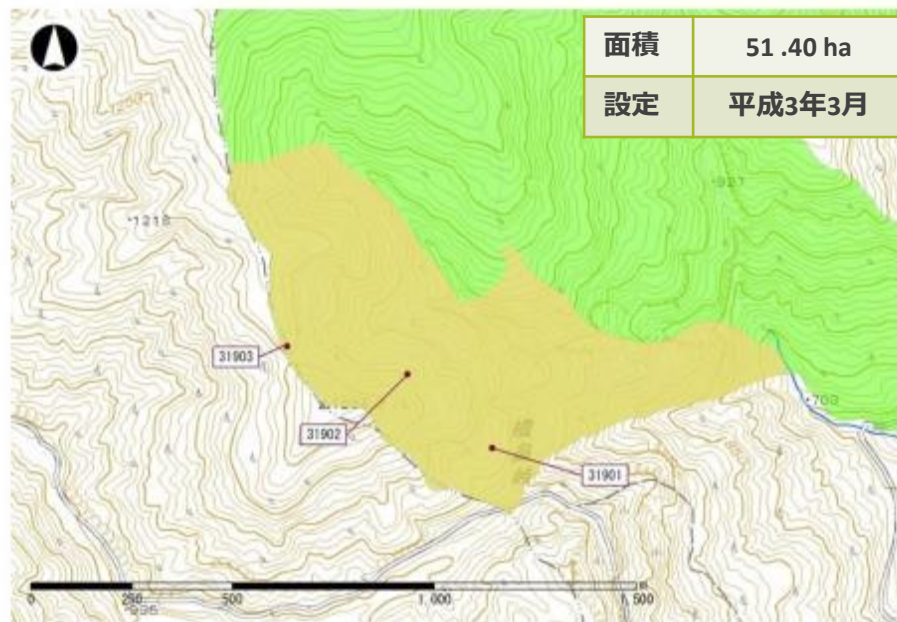
プロット1

⑭ 榎葉アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

小丸川支流の渡川最上流部に位置し、宮崎県美里町と椎葉村が接する村境の槇鼻峠と、この峠から北北西の槇ノ鼻(1,289m)を經由して延びる稜線の東側及び北東の急斜面(標高700m~1,300m)に分布するブナ、ツガやブナ、ミズナラなどを主体とする林齢260年生以上の天然林。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、アカマツ、ヒメコマツ、コウヤマキ、ミズメ、ミズナラ。



H31 結果 (森林詳細・シカ被害)

- シカ被害レベル **3**
- 保護対象樹種のミズメが1本新たに枯れ、ミズナラに天狗巣病が確認された。
- 草本層は貧弱で、植被率の高い場所ではシカの忌避植物が林床を覆っている状況であった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料 (実施)

病虫害・鳥獣害の発生状況 (実施)



遠景



プロット31901

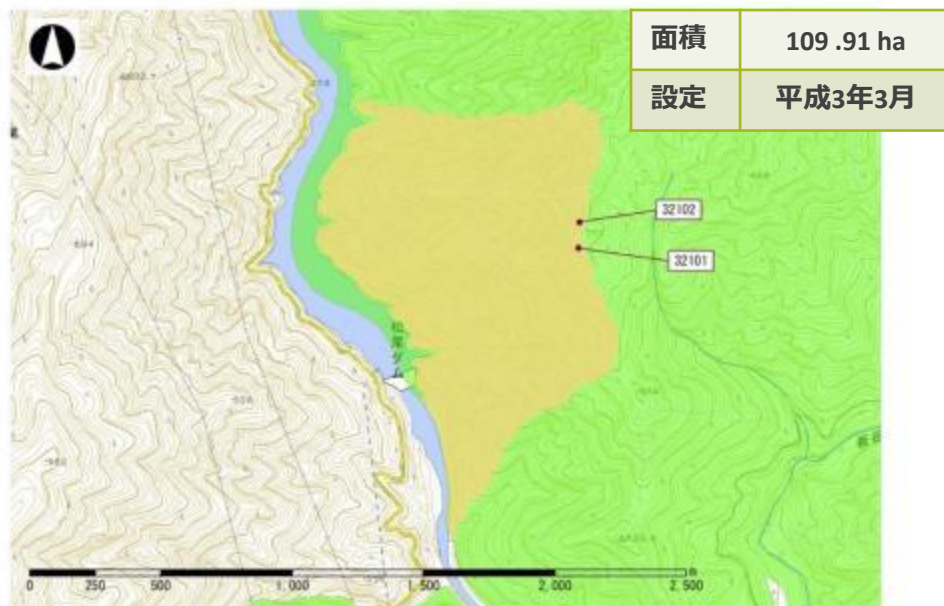
おすず

⑮ 尾鈴アカマツ等遺伝資源希少個体群保護林

小丸川上流の木城町にある松尾ダム付近の小丸川左岸に位置し、急傾斜地（200m～780）に分布する、イスノキ、ウラジロガシ、スダジイ等を主体にアカマツ、コウヤマキも生育する林齢190年生以上の天然林である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、アカマツ、コウヤマキ、イチイガシ、タブノキ。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル **3-4**
- 保護対象樹種の枯損等は確認されなかった。
- 草本層**は全プロットともに**植被率が極めて低く、貧弱**である。
- プロット32101は**草本層の衰退が顕著**であり、表土流亡が起こっている。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



プロット32101

おすず

①6 尾鈴コウヤマキ希少個体群保護林

尾鈴山瀑布群の西側、矢筈岳（1,330m）に位置し、その北側の約400mに連なる山との山頂部と東西斜面（1,200～1,330m）に分布する林齢155年生以上のコウヤマキ群落の分布南限天然林である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、コウヤマキ。



コウヤマキ（プロット42302）



プロット42301

H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル**3-4**
- 保護対象種の新たな枯損等は確認されなかった
- 保護対象樹種や林冠構成種の**後継個体**（稚樹や実生）として、**ツガ、ヒメシヤラ、コウヤマキ、アカガシ**が確認された。
- 草本層は貧弱**で、植被率の高い場所では**シカの忌避植物**が優占している状況であった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

⑰ 八久保イチイガシ遺伝資源希少個体群保護林

清武川の支流の黒北川に上流、内八重地区及び堀口地区の西側山地に位置し、三角点の山（387m）から北へ200m程の標高320m～370mの斜面に分布する、イチイガシ等の林齢150年生以上の天然林である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、イチイガシ。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル**1-2**
- 保護対象種の新たな枯損等は確認されなかった。
- 林冠構成種の**後継個体**(稚樹や実生)として、**イスノキ、スタジイ、ホソバタブ、タブノキ**が確認されたが、保護対象樹種の後継個体は確認されなかった。
- 病虫害として、プロットNo.1でカシノナガキクイムシによる枯損が確認された。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



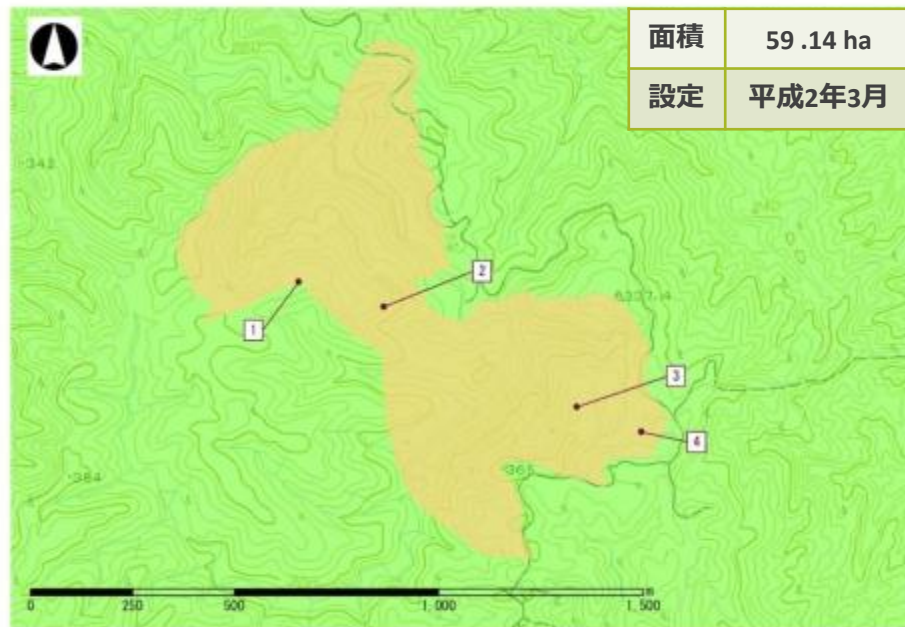
プロット1

⑱ 蝮尻ツブラジイ等遺伝資源希少個体群保護林

宮崎市高岡町の大淀川に架かる楠見大橋の南約4km、高房山(337m)の西側の緩傾斜に位置し、ツブラジイ、スタジイ、イスノキなどの常緑広葉樹にイヌマキが混成する林齢85~130年生以上の天然林(標高250m~350m)である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、ツブラジイ、スタジイ、イスノキ、イヌマキ、イチイガシ。



イチイガシの巨木



プロット1

H31 結果 (森林詳細・シカ被害)

- シカ被害レベル**0-3**
- 保護対象種の新たな枯損等は確認されなかった。
- 保護対象樹種や林冠構成種の**後継個体**(稚樹や実生)として、**イチイガシ、ツブラジイ、イスノキ、ハナガガシ、スタジイ、タブノキ、ウラジロガシ、アカガシ**が確認された。
- 低木層または草本層において、4プロット中3プロットで**アオキ**の生育が確認された。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料 (実施)

病虫害・鳥獣害の発生状況 (実施)

⑬重永カヤ等遺伝資源希少個体群保護林

宮崎県小林市に位置し、カヤ、ケヤキ、ミズメ、ウラジログシ等の常緑広葉樹と落葉広葉樹が混合する天然林である。付近には、樹齢620年、樹高35m、胸高直径2.07mの巨木（八人塚一本杉）がある。

保護・管理を図るべき事項

カヤ、ケヤキ、ミズメ、ウラジログシの保存



H30 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル**3-4**
- 保存対象樹種の枯損等は確認されなかった。
- ウラジログシの後継個体が1プロットで確認された。
- **表土流亡**が3プロット中2プロットで発生しており、草本層の衰退が顕著である。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



近景



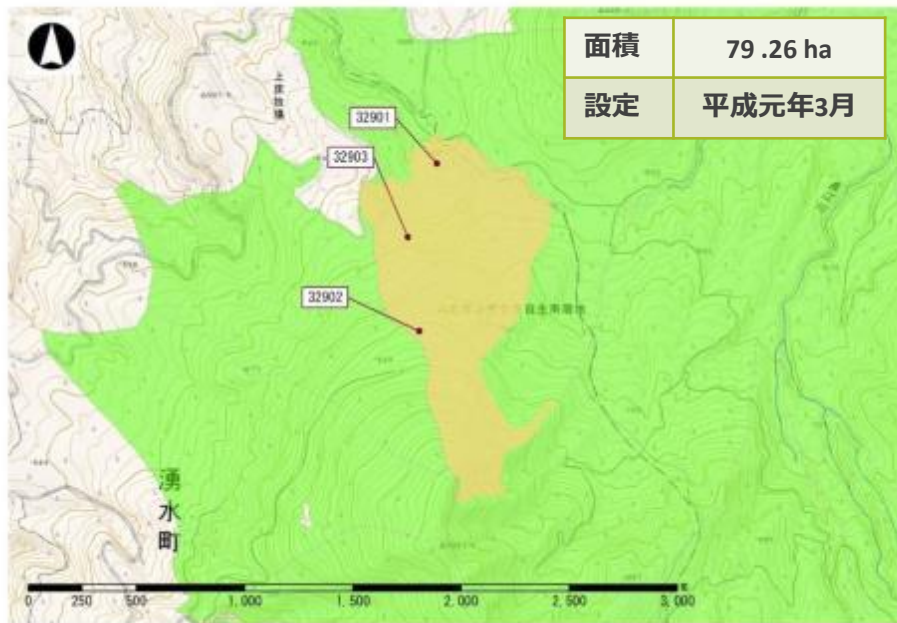
プロット1

②0 川添タブノキ等遺伝資源希少個体群保護林

鹿児島県湧水町の栗野岳山頂（1,102m）とこれから北北西に約1,500mの位置まで延びる保護樹帯との北東斜面に位置する、イスノキ、タブノキ、アカガシ等の常緑天然広葉樹とその上部の落葉広葉樹からなる林齢120年生以上の天然林（標高750m～1,100m）である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、タブノキ、イスノキ、シラカシ、アカガシ、スタジイ、ミズメ、クマシデなどの常緑広葉樹林及び落葉広葉樹林を構成する種。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- ・シカ被害レベル**3**
- ・保存対象樹種の枯損等は確認されなかった
- ・後継個体として、ウラジロガシ、ホソバタブ、タブノキ、イスノキ、バリバリノキが確認された。
- ・草本層は全プロットともに**植被率が極めて低く**、貧弱である。

R6 調査項目

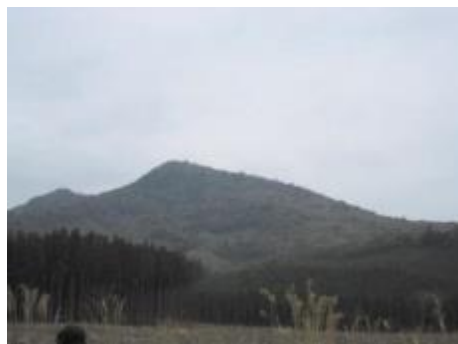
【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



遠景



プロット32901

②1 種子島ヤクタネゴヨウ等希少個体群保護林

西之表市の南部、種子島のほぼ中央部に位置する、安城地区を流れる大川田川上流の中割国有林地区内の林齢160年生以上の常緑広葉樹林及び立山港に注ぐ早稲田川上流の木成国有林地区内の林齢50年生程の常緑広葉樹二次林ものである。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、ヤクタネゴヨウのほか、イヌマキ、ナギ等の針葉樹が混生する常緑広葉樹林を構成する種。



遠景



プロット43401



プロット44001

H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル3
- 保存対象樹種の枯損等は確認されなかった。
- 林冠構成種の後継個体として、イスノキ、アカガシ、ウラジロガシ、マテバシイ、ホソバタブ、スタジイなどが確認されたが、ヤクタネゴヨウの後継個体は確認されなかった。
- 希少種として、ヤッコソウ、ボウラン、ヒメトケンラン、シマシュスランが確認された。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

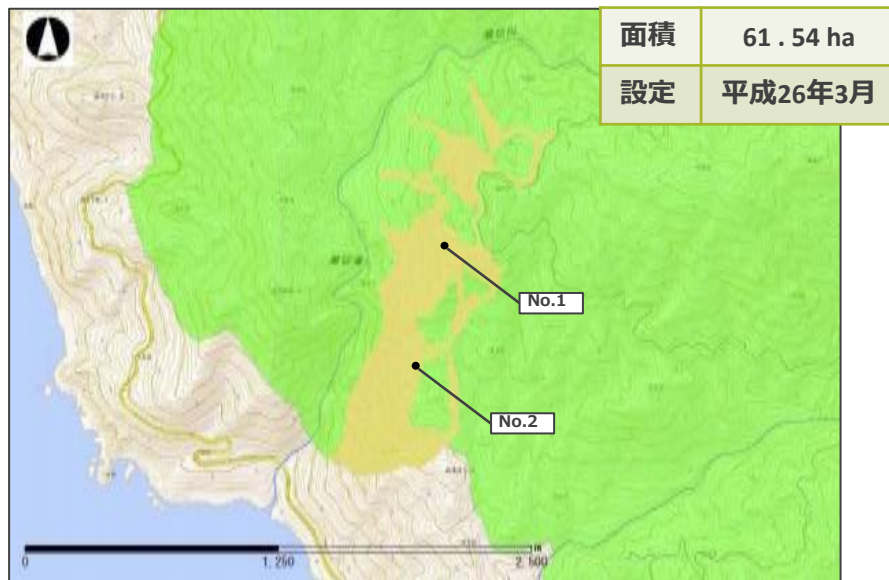
病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）

②瀬切川ヤクタネゴヨウ希少個体群保護林

屋久島西部に位置し、瀬切川の中～下流の左岸の急傾斜地（標高140～460m）に分布する、林齢178年生以上の常緑広葉樹の天然林及び林齢40年生程のシイ類、カシ類を主とする常緑広葉樹二次林である。

保護・管理を図るべき事項

保護・管理の対象個体群は、ヤクタネゴヨウ。



H31 結果（森林詳細・シカ被害）

- シカ被害レベル**3**
- 保存対象樹種のヤクタネゴヨウの枯損等は確認されなかった。
- 草本層はプロットNo.1は植被率が低く貧弱であり、プロットNo.2は植被率が高いが、優占しているのはシカの忌避植物であるアデクであった。

R6 調査項目

【必須項目】

保護対象種に係る森林詳細・資料

【選択項目】

各事項に係る森林詳細・資料（実施）

病虫害・鳥獣害の発生状況（実施）



全景



プロット1